

＜かんきつ＞ ナメジ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ICボルドー66D	F:M01(M)	発生前～発生初期	-	散布
アグリメック	1:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
マイキラーL		収穫30日前まで	3回以内	散布
ナメグリーン3		収穫30日前まで	3回以内	株元散布

＜かんきつ＞ チャノホコリダニ

1. 本種は5～10月に発生する。
2. 他害虫防除に合ピレ剤を使用すると、多発することがある。
3. サンマイト、ハチハチ、アグリメック、グレーシアはカブリダニが主体の地域では夏季の使用を控える（天敵保護）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	1:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
カネマイトフロアブル	1:20B	収穫7日前まで	1回	散布
グレーシアフロアブル	1:30	収穫7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	1:13	収穫前日まで	2回以内	散布
コロマイト水和剤	1:6	収穫7日前まで	2回以内	散布
サンマイト水和剤	1:21A	収穫3日前まで	2回以内	散布
スターマイトフロアブル	1:25A	収穫7日前まで	1回	散布
ダニエモンフロアブル	1:23	収穫7日前まで	1回	散布
ダニゲッターフロアブル	1:23	収穫前日まで	1回	散布
ハチハチフロアブル	1:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布

＜かんきつ＞ ハダニ類

1. 散布むらや散布直後の降雨は効果が減退する。
2. 凍害を受けやすい立地条件の園では、冬期のマシン油乳剤散布は行わない。
3. 1～3月に収穫する品種にマシン油乳剤を散布する時は収穫後（3月）散布とし、4月以降に収穫する場合は12月下旬～1月中旬に散布する。
4. マシン油乳剤は時期によって希釈倍率が異なるので、注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コロマイト水和剤	1:6	収穫7日前まで	2回以内	散布
スプレーオイル	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布
トモノールS	1:UNM/F:NC	4月～5月	-	散布
トモノールS	1:UNM/F:NC	夏期	-	散布
トモノールS	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布
スパイカルEX ※1		発生初期	-	放飼
スパイカルプラス ※1		発生初期	-	放飼
スパイカルプラスUM ※1		発生初期	-	放飼
スパイデックス ※2		発生初期	-	放飼
スパイデックスバイタル ※2		発生初期	-	放飼
システムミヤコくん ※2		発生直前～発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

※2 上位作物群「果樹類(施設栽培)」の登録薬剤

＜かんきつ＞ ミカンハダニ

1. 注意事項はハダニ類の項を参照。
2. ダニサラバフロアブルは、ハウスミカンでは使用しない（葉害）。
3. 土着天敵の活用については「生物的防除法 6. 土着天敵を活用した防除技術」の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	1:UNM/F:NC	4月～10月	-	散布
アタックオイル	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
カネマイトフロアブル	1:20B	収穫7日前まで	1回	散布
サフオイル乳剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
スターマイトフロアブル	1:25A	収穫7日前まで	1回	散布
ダニエモンフロアブル	1:23	収穫7日前まで	1回	散布
ダニゲッターフロアブル	1:23	収穫前日まで	1回	散布
ダニコングフロアブル	1:25B	収穫前日まで	1回	散布
ダニサラバフロアブル	1:25A	収穫前日まで	2回以内	散布
ハーベストオイル	1:UNM/F:NC	4月～5月	-	散布
ハーベストオイル	1:UNM/F:NC	夏期(6月～7月中旬)	-	散布
ハーベストオイル	1:UNM/F:NC	冬期(12月～3月)	-	散布
マイトコーネフロアブル	1:20D	収穫7日前まで	1回	散布
ラビサンスプレー	1:UNM/F:NC	春～夏期(4月～7月中旬)	-	散布

＜かんきつ(施設栽培)＞ ミカンハダニ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
システムスワルくん		発生直前～発生初期	-	放飼
システムスワルくんロング		発生直前～発生初期	-	放飼
スワルスキー ※1		発生直前～発生初期	-	放飼
スワルスキープラス ※1		発生直前～発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「果樹類(施設栽培)」の登録薬剤

＜かんきつ＞ サビダニ類

1. 発生消長は年によって異なるので、予防散布や発生初期の散布に努める。
2. 春葉で増殖を開始する新芽展葉期および果実で増殖を開始する6月下旬～7月上旬の防除が重要である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	-	-	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ> ミカンサビダニ

1. 注意事項はハダニ類の項を参照。
2. 土着天敵の活用については、「生物的防除法 6. 土着天敵を活用した防除技術」を参照。
3. サンマイト水和剤、ハチハチフロアブル、アグリメックは、カブリダニ類に影響するため、夏期の使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	I:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
アタックオイル	I:UNM/F:NC	-	-	散布
イオウフロアブル	I:UN/F:M02(M)	発生初期	-	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
カネマイトフロアブル	I:20B	収穫7日前まで	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
コロナフロアブル	I:UN/F:M02(M)	-	-	散布
コロマイト水和剤	I:6	収穫7日前まで	2回以内	散布
サルファーゾル	I:UN/F:M02(M)	発生前～発生初期	-	散布
サンマイト水和剤	I:21A	収穫3日前まで	2回以内	散布
ダニエモンフロアブル	I:23	収穫7日前まで	1回	散布
ダニゲッターフロアブル	I:23	収穫前日まで	1回	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	収穫7日前まで	2回以内	散布
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫7日前まで	1回	散布

<かんきつ> カネタキ

1. 薬剤散布は、成虫発生期の7月下旬から8月上中旬に実施する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリオン水和剤40	I:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫21日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> アザミウマ類

1. チャノキイロアザミウマの防除についての注意事項は、チャノキイロアザミウマの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アグリメック	I:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
スピノエースフロアブル	I:5	収穫7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
テッパン液剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	収穫7日前まで	2回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> アザミウマ類(ネギアザミウマを除く)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ> チャノキイロアザミウマ

1. 6月上旬～9月上旬の第2～6世代を防除対象とする。
2. 薬剤防除適期である各世代の飛来ピーク時期は年次や産地によって異なるので、発生予察情報を参考にして防除日を決定する。
3. 許容被害度を10とした場合、6月～7月の寄生果率が8%、8～9月は10%が防除の目安である。
4. 樹冠占有面積率60%以下の園地で、反射率90%以上のシートを全面被覆すれば、薬剤防除と同等の効果がある。物理的防除法の項を参照。
5. キラップフロアブルは、施設栽培および着色初期以降の使用はしない(薬害)。
6. ホワイトコートは、6月上旬と7月中旬に2回散布すると8月末まで被害抑制効果がある。なお、梅雨明け以降の散布は収穫時に白斑が残りやすいので使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫21日前まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ホワイトコート	-	発生初期	-	散布

<かんきつ> ヨコバイ類

1. ハチハチは、カブリダニが主体の地域では夏季の使用を控える(天敵保護)。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ> チャノミドリヒメヨコバイ

1. 一般に10月中旬～11月下旬に発生するが、年による発生時期、発生量の変動が大きいので園内の発生に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

＜かんきつ＞ ミドリヒメコハイ

1. 一般に10月中旬～11月下旬に発生するが、年による発生時期、発生量の変動が大きいので園内の発生に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ロディー乳剤	1:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布

＜かんきつ＞ ミカンキジラミ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダントツ水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

＜かんきつ＞ アブラムシ類

1. 4月下旬～9月下旬に発生するので、この時期の早期発見に努め、発生初期に防除する。

2. キラップフロアブルは、施設栽培および着色初期以降の使用はしない（薬害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	1:4A	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	1:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	1:2B	収穫21日前まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	1:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
トランスフォームフロアブル	1:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハチハチフロアブル	1:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

＜かんきつ＞ コナジラミ類

1. 成虫の発生終息期にあたる幼虫発生時期に防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アドマイヤー顆粒水和剤	1:4A	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	1:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ハチハチフロアブル	1:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布

＜かんきつ＞ カイガラムシ類

1. 散布むらや散布直後の降雨で効果の減退が大きい。

2. 1～3月に収穫する品種にマシン油乳剤を散布する時は収穫後（3月）散布とし、4月以降に収穫する場合は12月下旬～1月中旬に散布する。

3. イセリヤカイガラムシ、コナカイガラムシ、アカマルカイガラムシは6月中～下旬と8月中～下旬の幼虫発生期に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	1:UNM/F:NC	6月～10月	-	散布
アタックオイル	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布
オリオン水和剤40	1:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
スピンドロン乳剤	1:UNM/F:NC	冬期(12月～3月)	-	散布
トモノールS	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布
トランスフォームフロアブル	1:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハーベストオイル	1:UNM/F:NC	夏期(6月～7月中旬)	-	散布
ハーベストオイル	1:UNM/F:NC	冬期(12月～3月)	-	散布
モスピラン顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
モベントフロアブル	1:23	収穫7日前まで	3回以内	散布
ラビサンスプレー	1:UNM/F:NC	夏期(6月～7月中旬)	-	散布

＜かんきつ＞ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類

1. スプレーオイルの散布は、12月下旬～1月中旬または3月とする。なお、散布むらや散布直後の降雨により効果が減退する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スプレーオイル	1:UNM/F:NC	12月～3月	-	散布

＜かんきつ＞ カイガラムシ類(アカマルカイガラムシを除く)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コルト顆粒水和剤	1:9B	収穫前日まで	3回以内	散布

＜かんきつ＞ コナカイガラムシ類

1. 薬剤等についてはカイガラムシ類の項を参照。

2. 薬剤は6月上旬、7月下旬～8月中旬の幼虫期に散布する。

3. 寄生部位が葉裏や枝梢のくぼみなので、特に丁寧に散布する。

4. 散布むらや散布直後の降雨は効果の減退が大きい。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ> ツノロウシ

1. 通常は幼虫発生終期（7月下旬）に1回、激発時には7月中旬、8月上旬の2回散布とする。幼虫の発育の進んだ8月中旬以降では実用的な効果はない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> アカマルカイガラムシ

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのカイガラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> ヤノネカイガラムシ

1. 薬剤等についてはカイガラムシ類の項を参照。

- 天敵寄生蜂ヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチはすでに定着しているので、それらの保護に努める（生物的防除法）。
- 導入天敵による果樹害虫の防除方法の項参照）。
- ヤノネカイガラムシの発生が少ない場合は天敵に比較的影響の少ないマシン油乳剤またはカイガラムシ類幼虫（かんきつ（みかんを除く）またはみかん）の項のアプローチフロアブルを用いる。
- 増加傾向にある場合は、冬期にマシン油乳剤を散布する。凍害を受けやすい立地条件の夏みかん園ではマシン油乳剤は3月に散布する。
- 夏期の薬剤防除適期は、2令幼虫最多寄生期（6月下旬、8月下旬）である。
- 1月～3月に収穫する場合は収穫後散布（3月散布）とし、4月以降に収穫する場合は12月下旬～1月中旬に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> ヤノネカイガラムシ幼虫

- マシン油乳剤は散布むらや散布直後の降雨により効果が減退する。
- 注意事項、薬剤についてはカイガラムシ類、ヤノネカイガラムシの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スピンドロン乳剤	I:UNM/F:NC	夏期(6月～10月)	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	夏期	-	散布

<かんきつ> カムシ類

- 収穫期に防除を行う場合は安全使用基準に注意する。
- 年による発生量、発生時期の変動が大きいので、発生予察情報に注意する。
- 越冬量が多い年は早生品種では7～8月中旬に加害されることがあるので注意する。
- スギ、ヒノキの穂果が多い年は8月下旬以降に新成虫の発生が多くなる。
- 夏季の合ピレ剤使用は控える（天敵保護）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アグロスリン乳剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
テルスター水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
ロディー乳剤	I:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布

<かんきつ> コアオハナムグリ

- 常発園に限り防除する。
- 防除実施にあたり、付近の養蜂に注意し、事前に静岡県養蜂協会に防除計画を連絡し、ミツバチに被害が及ばないようにする。（農薬適正使用 5. 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項参照）

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> ケシキイ類

- 常発園に限り防除する。
- 防除実施にあたり、付近の養蜂に注意し、事前に静岡県養蜂協会に防除計画を連絡し、ミツバチに被害が及ばないようにする。（農薬適正使用 5. 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項参照）

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> かきムシ類

- 6月上旬までに、シュロの繊維または金網などの産卵防止用の資材を樹幹の地際部にまきつける。産卵期間中は樹幹を露出しないようにする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ロビンフッド	I:3A	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射

<かんきつ> ゴマダラカミキリ

- 6月上旬までに、シュロの繊維または金網などの産卵防止用の資材を樹幹の地際部にまきつける。産卵期間中は樹幹を露出しないようにする。
- アルバリン、スタークル、ダントツ、ハチハチの処理は、6月に樹全体に行い、産卵前の成虫を対象とする。
- 樹幹の株元等に処理する薬剤は、幼虫の食入防止を目的にし、7月上旬に処理する。
- 株元処理薬剤は茎葉散布してはならない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクセルフロアブル	I:22B	収穫7日前まで	3回以内	散布 散布 散布 散布 散布 散布 主幹から株元に散布 主幹から株元に散布 【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	
テッパン液剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫前日まで	2回以内	
アクセルフロアブル	I:22B	収穫7日前まで	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	
園芸用キンチョールE	I:3A	収穫14日前まで	6回以内	【2ウェイノズル方式】折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。
園芸用キンチョールE	I:3A	収穫14日前まで	6回以内	

<かんきつ> ゴマダラカミキリ成虫

- 注意事項についてはかんきつのゴマダラカミキリの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
グレースシアフロアブル	I:30	収穫7日前まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> ケムシ類

- クワゴマダラヒトリの発生が多い地域では、9月下旬～10月にミカン園の周囲100m以内の産卵樹（カラスノサンショウ、アカメガシワ、ニセアカシア、クワなど）を伐採する。
- 幼虫の分散前に寄生樹を処分する。
- 冬季に産卵樹周辺に形成された巣網を処分する。
- ミツバチの被害回避のため、開花期は散布しない。
- 殺虫剤の散布は越冬後の個体を対象に4月～5月上旬に行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ロディー乳剤	I:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布

<かんきつ> ハマキムシ類

- 薬剤防除適期は成虫発生盛期の7～10日後である。成虫の発生消長は年によって異なるので、茶のハマキムシ類の発生予察情報を参考にする。
- 果梗部の傷の原因は、6月下旬～7月上旬の加害が主である。
- 茶園と隣接するほ場で発生が多い。
- 果実の着色期にも加害され、秋季の気温が高い年は果実に食入することがあるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ロディー乳剤	I:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布

<かんきつ> ミカンハモグリガ

- 夏芽、秋芽の発芽直後から散布する。ネオニコチノイド剤は10日間隔、他剤は5日間隔で散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アグリメック	I:6	収穫7日前まで	3回以内	散布

アドマイヤー顆粒水和剤	1:4A	収穫14日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
エクシレルSE	1:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	1:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
カスケード乳剤	1:15	収穫7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スピノエースフロアブル	1:5	収穫7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	1:5	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> アゲハ類

1. 7月～9月の幼虫発生期に防除する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクセルフロアブル	1:22B	収穫7日前まで	3回以内	散布
エクシレルSE	1:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	1:1A	収穫14日前まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	1:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	1:5	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	1:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> シャクトリムシ類

1. 増殖源のイヌマキ・チャにおける発生に注意する。
2. ロディー乳剤は天敵類に影響するため、発生場所のみに散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ロディー乳剤	1:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布

<かんきつ> ヨモギエダシヤク

1. 薬剤・注意事項についてはシャクトリムシ類を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクセルフロアブル	1:22B	収穫7日前まで	3回以内	散布
アグリメック	1:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
エクシレルSE	1:28	収穫前日まで	3回以内	散布
コテツフロアブル	1:13	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナWDG	1:5	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ> 黄斑病

1. ヤノネカイガラムシの多発園に発病が多いので、ヤノネカイガラムシの防除に努める。
2. Zボルドーには、炭酸カルシウム剤(200倍)を加用する。(クレフノン、アプロン)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー		発病前～発病初期	-	散布

<かんきつ> かいよう病

1. 風ずれなどの傷口からは菌が容易に侵入するので、防風垣の整備を防除の基本にする。
2. 罹病夏秋枝は翌年の第1次伝染源となるので、剪定の際に支障のない限り取り除く(耕種的防除法の項参照)。
3. ミカンハモグリガの被害は発生を助長するので防除に努める。
4. 銅水和剤の散布間隔は、累積降雨量200～250mmを目安とする。残効は10日間程度である。
5. 銅水和剤とマシン油乳剤の近接散布は、効果が減退するので1週間程度間隔を置く。ICボルドー66Dでは20日以上の間隔をおく。ICボルドー66Dは樹勢の悪い樹には散布しない(落葉)。
6. 銅水和剤及び銅水和剤の混合剤は炭酸カルシウム剤(200倍)を加用する(クレフノン、アプロン)。
7. 3月中旬(発芽前)、5月上旬、下旬、6月下旬、台風襲来前に防除を行う。前年に台風が襲来し、潜伏越冬病斑の多い年は3月中旬(発芽前)の防除を徹底する。
8. ウンシユウミカンでは銅剤の5～7月の散布は中晩柑に比べて薬害が出やすい。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ICボルドー66D	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	生育期	-	散布
ジーファイン水和剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫7日前まで	4回以内	散布
フジドーLフロアブル	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
マスタピース水和剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
ムッシュボルドーDF	F:M01(M)	-	-	散布

<かんきつ> 褐色腐敗病

1. 土壌からの雨滴のはねかえりを防止するため、樹冠下に敷ワラ、敷草を行い、下枝には支柱を立てる。
2. スプリンクラーかん水を行う場合は夕方まで露が残らないようにする。
3. 発病の初期でないと薬剤の効果が低いので早期発見に努め、発病を認めたら下枝に直ちに薬剤散布を行う。
4. アリエッティ水和剤は、みかんに使用する場合、高温時は日焼け果発生を助長する恐れがあるので注意する。
5. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間ではライメイ、ランマン、レーバスの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アリエッティ水和剤	F:P07(P7)	収穫前日まで	3回以内	散布
ストロビードライフフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	3回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	3回以内	散布
レーバスフロアブル	F:40(H5)	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> 黒点病

1. 枯枝、剪定枝は伝染源となるので枯枝切りを徹底し剪定枝は園外に持ち出す（耕種的防除法の項参照）。
2. 薬剤の残効は散布後の日数と降雨量に左右される。
3. 有機銅以外の薬剤：散布間隔は、25～30日または降雨量 250～300mmを目安とする。
4. デランフロアブルは7月以降に散布すると、貯蔵中に虎斑症状が出ることもある。
5. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はデラン、ナティーボの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ナティーボフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<かんきつ> そうか病

1. 発病している夏秋枝は剪定時にできるだけ切り取る。
2. 展葉期、5月下旬、6月下旬に防除を行う。
3. 開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上あける（薬害）。
4. フロンサイドSCは施設内で使用しない。また、露地でも散布後7日間の入園を避け、6月以降は散布しない。
5. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はデラン、ナティーボ、フルーツセイバー、パレード、ロンセラーの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ナティーボフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫7日前まで	2回以内	散布
フジドーLフロアブル	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
フルーツセイバー	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	収穫30日前まで	1回	散布
マネージDF	F:3(G1)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ムッシュボルドーDF	F:M01(M)	-	-	散布
ロンセラーフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布

<かんきつ> 炭疽病(さび果)

1. 枯枝から菌が飛散するので樹勢を健全に保ち、枯枝の除去に努める。
2. デランフロアブルは貯蔵する品種には使用しない。
3. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はデランの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ> 灰色かび病

1. フロンサイドSCは施設内では使用しない。また、露地でも散布後7日間の入園を避ける。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はフルピカの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エコショット	F:BM02(BM)	開花期～落弁期	-	散布
ストロビードライフロ	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
パチスター水和剤	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
フルーツセイバー	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
フルピカフロアブル	F:9(D1)	開花期～幼果期(但し、収穫90日前まで)	2回以内	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	収穫30日前まで	1回	散布

<かんきつ> 幹腐病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ICボルドー66D	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
トップジンMペースト	F:1(B1)	剪定整枝時	3回以内	塗布

<かんきつ(みかんを除く)> チャノホコリダニ

1. 本種は5～10月に発生する。
2. 他害虫防除に合ピレ剤を使用すると、多発することがある。
3. モレスタン水和剤は夏季の使用を控える（天敵保護）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
モレスタン水和剤	I:UN/F:M10(M)	収穫30日前まで	1回	散布

<かんきつ(みかんを除く)> ミカンハダニ

1. 注意事項、薬剤はかんきつのハダニ類、ミカンハダニの項を参照。
2. 土着天敵の活用については生物的防除法 6. 土着天敵を活用した防除技術の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バロックフロアブル	I:10B	収穫14日前まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> ミカンサビダニ

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのミカンサビダニの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫90日前まで	2回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫90日前まで	4回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫21日前まで	1回	散布

<かんきつ(みかんを除く)> アザミワ類

1. チャノキイロアザミウマの防除についての注意事項は、チャノキイロアザミウマの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ウララ50DF	I:29	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> アブラムシ類

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのアブラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ウララ50DF	I:29	収穫14日前まで	3回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> ミカンゲコナジラミ若齢幼虫

1. 各世代の防除適期は、成虫の発生が終わった直後（6月下旬、7月中～下旬、9月上旬）である。
 2. 寄生部位である葉裏を重点に散布する。
 3. 散布むらや散布直後の降雨で効果が減退する。
 4. 4月中～下旬または9月下旬～10月下旬に天敵シルベストリコバチが寄生したトゲコナジラミを葉ごと採集して網袋に入れ、園内につるしておく。
 5. 天敵放飼については、生物的防除法 5. 導入天敵による果樹害虫の防除方法の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロードフロアブル	I:16	収穫45日前まで	3回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> カイガラムシ類幼虫

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのカイガラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロードフロアブル	I:16	収穫45日前まで	3回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> ミカンハモグリガ

1. 注意事項、薬剤はかんきつのミカンハモグリガの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マッチ乳剤	I:15	収穫21日前まで	1回	散布

<かんきつ(みかんを除く)> ヨモキエダシヤク

1. 増殖源のイヌマキ・チャにおける発生に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マッチ乳剤	I:15	収穫21日前まで	1回	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 黄斑病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの黄斑病の項を参照。
 2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はジマンダイセンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫90日前まで	4回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> かいよう病

1. 注意事項、薬剤はかんきつのかいよう病の項を参照。
 2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はキンセツ、マイコシールドの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫45日前まで	5回以内	散布
カッパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫45日前まで	5回以内	散布
マイコシールド	F:41(D5)	収穫30日前まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 黒点病

1. 枯枝、剪定枝は伝染源となるので枯枝切りを徹底し剪定枝は園外に持ち出す（耕種的防除法の項参照）。
 2. 薬剤の残効は散布後の日数と降雨量に左右される。
 3. 有機銅以外の薬剤：散布間隔は、25～30日または降雨量 250～300mmを目安とする。
 4. 防除効果はマンネブ剤が最も安定している。
 5. 注意事項、薬剤はかんきつの黒点病の項を参照。
 6. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、オキシンドー、キノンドー、ジマンダイセン、ペンコゼブの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫90日前まで	2回以内	散布
オキシンドー水和剤80	F:M01(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
キノンドー水和剤80	F:M01(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫90日前まで	4回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫90日前まで	4回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 小黒点病

1. 枯枝、剪定枝は伝染源となるので枯枝切りを徹底し剪定枝は園外に持ち出す（耕種的防除法の項参照）。
 2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファーの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫90日前まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 炭疽病(さび果)

1. 注意事項、薬剤はかんきつの炭疽病（さび果）の項を参照。
 2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はジマンダイセンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫90日前まで	4回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(青かび病)

1. ネーブルの貯蔵は温州に比べやや高湿を好むので、湿度条件に注意する。
2. 入庫時の予措（風乾し、水分を重量で3～4%減らす）と貯蔵庫の管理を主体に行う。
3. 貯蔵庫内の温湿度を適正に保ち、点検は入庫から2月中旬までは月1回それ以後は月2回を標準に行う。病害虫発生予察情報により多発生が予想されるときは点検を頻繁に行う。
4. 軸腐病は生育期に黒点病防除を徹底する。
5. トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は、軸腐病にも効果がある。なお、両剤の間には交差耐性があるので注意する。
6. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。
7. トップジンM水和剤は、かんきつ（みかんを除く）の施設栽培には使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(黒腐病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(黒斑病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(軸腐病)

1. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。
2. トップジンM水和剤は、かんきつ（みかんを除く）の施設栽培には使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(白かび病)

1. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(炭疽病)

1. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 貯蔵病害(緑かび病)

1. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。
2. トップジンM水和剤は、かんきつ（みかんを除く）の施設栽培には使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 灰色かび病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの灰色かび病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はスイッチの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スイッチ顆粒水和剤	F:9(D1)	収穫45日前まで	2回以内	散布

<かんきつ(みかんを除く)> 幹腐病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バッチレート	F:M01(M)	剪定時及び病患部削り取り直後	3回以内	剪定枝の切り口、病患部の削除跡に塗布

<かんきつ(苗木)> ミカンハモグリガ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	育苗期	3回以内	散布
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	春芽・夏芽又は秋芽の発生前	3回以内	主幹部に吹きつけ
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	春芽・夏芽又は秋芽の発生前	3回以内	主幹部に吹きつけ
アクタラ粒剤5	I:4A	育苗期	2回以内	株元散布
アドマイヤー1粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
アルバリン粒剤	I:4A	育苗期	5回以内	株元散布
スタークル粒剤	I:4A	育苗期	5回以内	株元散布
モスピラン粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布

<かんきつ(苗木)> アゲハ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エクシレルSE	I:28	育苗期	3回以内	散布

<かんきつ(苗木)> 温州萎縮病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロールピクリン	I:8B		1回	土壌くん蒸 土壌くん蒸<圃場>深さ 15cmと45cmの位置のそ れぞれに1平方メートルあ たり10錠をばら撒き散布 する。
クロールピクリン錠剤	I:8B		1回	

<みかん> チャノホコリダニ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
モレスタン水和剤	I:UN/F:M10(M)	収穫7日前まで	3回以内	散布

<みかん> ハダニ類

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのハダニ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コロマイト水和剤	I:6	収穫7日前まで	2回以内	常温煙霧

<みかん> ミカンハダニ

1. 注意事項、薬剤はかんきつのハダニ類、ミカンハダニの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バロックフロアブル	I:10B	収穫前日まで	2回以内	散布

<みかん> ミカンサビダニ

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのミカンサビダニの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫60日前まで	2回以内	散布 散布 散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	
マッチ乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	

<みかん> アザミウマ類

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのアザミウマ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	収穫3日前まで	2回以内	散布 散布
ウララ50DF	I:29	収穫7日前まで	2回以内	

<みかん> ミカントゲコナジラミ若齢幼虫

1. 注意事項についてはかんきつ(みかんを除く)のミカントゲコナジラミ若齢幼虫の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロードフロアブル	I:16	収穫14日前まで	3回以内	散布

<みかん> カイガラムシ類幼虫

1. 注意事項、薬剤についてはかんきつのカイガラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロードフロアブル	I:16	収穫14日前まで	3回以内	散布

<みかん> ミカンガタムシ

1. 日焼け、寒害、台風、強剪定あるいは管理不足等によって樹勢が低下すると加害されやすくなるので、樹勢の維持に努める。
2. 2月～4月(成虫発生前)に被害枝の伐採と処分を行う。
3. 伐採した寄生枝は4月中に必ず埋没処分する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガットサイドS	I:1B	5月～6月(成虫発生前直前)(但し、収穫90日前まで)	1回	直径3cm以上の主枝、垂 主枝、側枝に散布 直径3cm以上の主枝、垂 主枝、側枝に塗布
ガットサイドS	I:1B	5月～6月(成虫発生前直前)(但し、収穫90日前まで)	1回	

<みかん> カキリムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガットサイドS	I:1B	6月～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(但し、収穫90日前まで)	1回	樹幹の地際部から約30 ～40cmの高さまで散布 樹幹の地際部から約30 ～40cmの高さまで塗布
ガットサイドS	I:1B	6月～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(但し、収穫90日前まで)	1回	

<みかん> ミカンハモグリガ

1. 注意事項、薬剤はかんきつのミカンハモグリガの項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マッチ乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	散布

<みかん> ヨモギエダシヤク

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マッチ乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	散布

<みかん> 黄斑病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの黄斑病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はジマンダイセンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布

<みかん> かいよう病

1. 注意事項、薬剤はかんきつのかいよう病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はキンセツ、マイコシールドの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
銅ーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
キンセツ水和剤80	F:M01(M)	収穫30日前まで	5回以内	散布
マイコシールド	F:41(D5)	収穫60日前まで	2回以内	散布

<みかん> 黒点病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの黒点病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、オキシンドー、キノンドー、ジマンダイセン、ペンコゼブの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫60日前まで	2回以内	散布
オキシンドー水和剤80	F:M01(M)	収穫30日前まで	5回以内	散布
キノンドー水和剤80	F:M01(M)	収穫30日前まで	5回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布

<みかん> 小黒点病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの小黒点病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、ジマンダイセン、ペンコゼブの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫60日前まで	2回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布

<みかん> そうか病

1. 注意事項、薬剤はかんきつのそうか病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はジマンダイセンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	4回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(青かび病)

1. 注意事項についてはかんきつ（みかんを除く）の貯蔵病害（青かび病）の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(黒腐病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(黒斑病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(軸腐病)

1. 注意事項についてはかんきつ（みかんを除く）の貯蔵病害（軸腐病）の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(白かび病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(炭疽病)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 貯蔵病害(緑かび病)

1. 注意事項についてはかんきつ（みかんを除く）の貯蔵病害（緑かび病）の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤		収穫前日まで	4回以内	散布

<みかん> 灰色かび病

1. 注意事項、薬剤はかんきつの灰色かび病の項を参照。
2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はスイッチ顆粒水和剤の使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スイッチ顆粒水和剤	F:9(D1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
フルピカくん煙剤	F:9(D1)	開花期～幼果期(但し、収穫90日前まで)	2回以内	くん煙(通常10～15時間)

<みかん> 幹腐病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バッチレート	F:M01(M)	剪定時及び病患部削り取り直後	5回以内	剪定枝の切り口、病患部の削除跡に塗布